

こうの町 議会だより

決めたぞ太陽！



補正予算

一般質問	2P～3P
住民懇談会	4P～8P
陳情	9P

議会のことわかりやすくお伝えします

6月定例会

一般会計 総額32億5,478万円

補正額 1,522万円 減額

主な補正内容

歳出

集落支援員業務委託料

(NPO法人こうふのたより業務委託料)

150万円増

地域おこし支援事業

(空き家家財処分・改修補助金)

240万円増

下安井・舟場線県委託料

(補助金減額による)

2,860万円減

道路維持・補修費

(補助金減額による)

863万円減

平成30年6月定例会は、6月8日に召集され7日間と定めて開かれた。今回の定例会には、条例の改正1件、補正予算8件のその他2件の11議案が上程され慎重に審議した結果、いずれも原案どおり可決した。11日には5名の議員が一般質問に立ち、活発な議論を展開した。



新しく始まったNPO法人「こうふのたより」 (江尾駅2階)

特別会計

国民健康保険

(補助金確定による償還金)

135万円増

江尾診療所

(人件費確定によるもの)

327万円減

簡易水道事業

(貝田配水池修繕他)

121万円増

下水道事業

(料金システム改修等)

176万円増

5月臨時議会

5月18日臨時議会が招集され条例改正・補正予算等、原案どおり可決した。

又、庁舎建設特別委員会が開かれ進入路について検討した。現在の出入り口を利用する案と、江尾側に下げる案が示されたが、現地調査することとなった。6月20日、委員会を開き現在の進入路より10m江尾側にずらすことに決定した。

条例改正

○江府町税条例の一部改正

○国民健康保険税条例の一部改正

一般会計補正予算

旧老人福祉センター
空調設備改修工事費

1,150万円増



新庁舎建設に伴う新しい進入路(駐車場 180台予定)

新議会事務局長

永らく議会事務局長を務めて頂いた梅林茂樹氏は、3月末日を以て定年を迎え退職となりました。昭和62年入社以来32年間の中度の議会事務局長をされました。感謝致しますと共に今後のご活躍をお祈りします。

又、4月1日付けで、農林産業課の課長であった下垣吉正氏が議会事務局長に就任した。

議会事務局長

下垣 吉正 氏



一般質問

町政ここを問う

一般質問は5人の議員が行い、町長の方針をたじた

医療とショッピングの二刀流は？



川端 登志一

動画で一般質問



川端議員の一般質問は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。

新庁舎の河川側対策と自然景観の保護について

質問 護岸の形状と機能について。

新設護岸の勾配を緩和することは、河川断面を縮小することになり危険になるのでは。

町長答弁

現状の護岸は勾配が5分で、高さが7メートルの空石積みである。安全性が確保できないので勾配一割のブロック張り工法にするという事です。また河川内の堆積した土砂を撤去することにより現状の河川断面が狭くならないようにします。

川端 登志一

動画で一般質問



川端議員の一般質問は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。

質問 素晴らしい新庁舎が日野川沿いに建設されます。この機会に多くの町民が日野川に親しめるよう親水性を考慮して頂きたい。

町長答弁

現在河川内に人が近づけるようなスロープが設けてあるが、河川断面の関係からこれを撤去します。代わりに少し下流に階段を設けます。

質問 階段では利用する人に制限が発生するのでは？

町長答弁

庁舎の安全性を第一に考え、その中で可能な範囲で河川管理者と協議をいたします。

質問

新庁舎周辺の河川内岩石を保護し景観との調和を図りながら希少性をPRすべきでは？
南北80キロに連なる日野川で艶々と青く輝く岩石転石がこのように多く見られるのはここだけです。護岸工事などで傷つけたり失ったりしないようにしなくてはべき対策を講ずるべきと考えるが。

町長答弁

文化財保護審議会あたりで議論頂いて今後どうすべきか考えてみたい。

暮らしの利便を考える

質問 生活用品は気軽く買い物できなければならぬ。

町内の小売業者の営業努力にも拘わらず町内での買い物環境は日々悪化している、町長の認識は？

町長答弁

人口が減ってお客さんが少なくなるのはこの地域も抱える大きな問題です。我が町のような中山間地の町を支えていくにはいかにして地元のものを使うとするか、利用しようとするかが大事だと思います。小売りもそうだし飲食店もそうだと思います。議会の方でも会議後の慰労会など極力町内でして頂いていると認識している。そういうことを地道に積み上げることが地元のあるんなお店を盛り立てていく最初の第一歩と考えている。

質問

唯一無二のインフラ江尾診療所の活性化は？

医科歯科合算でここ3年平均すると毎年約千百人の外來患者が減少している。この際新しい送迎手段を含め思い切った施策が必要ではないかと考えるが、いかがか。

町長答弁

集落総合点検のアンケートでも75パーセントぐらいの方が診療所の存在価値を認めている。それだけ大事な施設インフラと認めている。小児科の新設も含め町単独では無理なもので日野病院と連携していく必要があると思う。また町営バス以外の移動手段についての検討も急いでやってみたいと思います。

質問

医療と小売りの二刀流を考えてみては？
診療所の中や隣接エリアに小売りのスペースを作れば新移動手段とともに活性化が図れるのでは？

町長答弁

大病院であれば別として今の診療所ではそういう余裕がありません。従って診療所の近くにあるお店や社協のサロンを使って頂くなど既存のものを有機的につなげていくのも一つの方法と考えます。

「あいきょう」に対する認識は



上原 二郎

動画で一般質問



上原議員の一般質問は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。

「あいきょう」が果たしている役割は

質問 「あいきょう」

は、平成16年農協が経営していた米沢、神奈川、俣野のスーパーが廃止するに当たり、多くの町民の声で江尾米沢、神奈川店を引き継ぐことになりました。

当時は、農協の後を継いだという意識もあり利用者も多かったようですが現在、経営状況は、大変厳しいと聞いています。

「あいきょう」の特筆すべき点は、移動販売車で生鮮食料品を江府町の隅々まで、また

自宅まで届ける点であります。皆さんに親しまれている「ひまわり号」「こまわり号」は各集落をそれぞれ担当を決め、週に2〜3回各集落を回っています。移動販売車の江府町内の販売場所は、36集落、100ヶ所にも及び、また、1日の利用者の人数は80名であり、その方々の日々の生活を直接支えるものとなっています。

又もう一つ、あまり知られていない「あいきょう」が行っていることがあります。それは独居の方や高齢者の見守りです。見守りの対象人数は独居の方が142名、高齢者世帯

113世帯・241名であり合わせると255世帯383名にも上り、いかに多くの方々「あいきょう」に支えておられるか良わかります。この方々が無事に過ごしておられるのが、買い物に来られなければ、家まで行き声を掛け確認しています。

以上、今迄述べた観点からもう一度多くの住民に「あいきょう」の担っている役割を理解して頂き利用者が増

えるよう町長から、話して頂くと共に、「あいきょう」存続の為に、行政も一緒になって考えるべきと考えますが町長の御所見をお伺いします。

町長答弁

具体的にお店の名前も挙げて「あいきょう」の質問ですが、設立の経緯でありまして、現在の経営状況、そして移動販売や高齢者、そして独居の方への見守りなどに

いて、上原議員から説明がありました。

言われるように383人の方が直接「あいきょう」のお世話になっておられ、現在の江府町にとって、「あいきょう」の存在と言うものは、なくてはならないものだということに認識しています。商品の数や価格だけで見ると、町外の大きなスーパーにはやはり太刀打ちできないかもしれません。

しかし、高齢者の方や独居の方の生活、命を守ると言う重要な役割を「あいきょう」は担っていると考えています。町民の皆さんの理解を得ながら、町をあげて、事業が今後もしっかりと継続できるように支援をしていく必要があると考えています。

今後、機会ある毎に利用促進を呼びかけ、商工会と共に検討して行きたい。



ひまわり号

農業戦略等の課題は行政主導でスピード感を



森田 哲也

動画で一般質問



森田議員の一般質問は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。

過疎高齢化は深刻に

質問 本町の農業戦略は、集落営農の推進だが、過疎化、後継者不足の進行とは、相違ができた。今こそ積極的な行政指導が必要ではないか。

町長答弁

一番の課題は後継者不足だが、若い世代に農業の魅力、重要性を伝えたい。また、外から来てもらう事もある。行政主導で引っ張るのではなく、サポートしていきたい。

課題の掘り起こし解決を

一緒に考えたい。一番大事なことは、作った計画をだれがやるのが大事なところ。

質問

厳しい環境の中緊急性がより高くなっている。行政の積極的介入、指導が必要ではないか。NPO法人の設立は大きな期待もてる。スピード感のある支援が必要。

町長答弁

今年も集落総合点検に出かけるが、今回は各リーダーが、事前に把握し話し合いをする。集落、役所、NPO法人など役割分担を決め、行政主導でなく一緒にやっていきたい。

質問

集落で意見がでなかつた事もあると考える。しっかりと掘り起こし、課題の収集が大切。集落に出か

ける職員と町長の思いに確かな共通認識を、そしてNPO法人には、活躍の場を提供し、職員と共に積極的な活動を願う。また、独居の方も増加し、個人を対象とする助成事業も必要ではないか。

町長答弁

今年はさらに進めていきたい。リーダー会

議では、例示をまとめて検討、協議を進めている。住民と話し合い、全職員で共有して各集落の課題を掘り起こしたい。NPO法人と共に推進し、行政でできない弱い部分を補完してもらおう。スピード感のある行政支援は今までも増して心がけたい。また、個人対象の支援については、慎重に考えたい。



今後が問われる農業戦略

情報を共有し、共通理解を！



三輪 英男

動画で一般質問



三輪議員の一般質問は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。

廃校をリノベーションして

質問 旧俣野小学校のメリットは初期費用が安価・話題性・地域密着・使い勝手を売り物と思うが見解を伺う。

町長答弁

現在、日本財団と鳥取県の共同事業ということで、小さな拠点事業というものに採択される可能性があるタイミングに来ております。ボランティアとかサロンスペース、そういったものを整備する。

あるいは健康づくり、予防に重点を置いた医療提供スペース等、地域医療の臨床研修、学

生の交流施設に考える。

住民の自主組織こそが重要

質問 旧明倫小学校周辺の環境整備活動を基盤に明倫地域の活性化

に寄与するため、様々な事業を展開し、しっかりととした取組を構築する、組織づくりが大切と考えるが、町長の見解を伺う。

町長答弁

住民の皆さんと行政が情報を共有して、理解があつて、ともに進んでいくという協働のまちづくり、これが重要だと思っております。旧明倫小学校、この地区の活動は「七色がし女性会」、「荒神楽を見る会」、「夢ラボ

畑地のソバ栽培も助成金を

質問 水田より畑地の耕作放棄地の割合が近年増加しております。ソバは、比較的手間が掛からない作物として、中山間地域等において広く栽培されております。「水田フル活用」並みの助成金があれば、農家としての見通しが広がるが見解を伺う。

町長答弁

私としては、先ず水田の方でのソバ栽培の推進というのを見たいので、やはり必要があるというふうには判断すれば畑地のほうの検討を始めたいと思います。まずは、水田フル活用

奥大山農業公社の更なる発展は

ビジョン、あるいはそれに対する産地交付金、そのあたりの活用を見て先に進めてみたいと思えます。

質問

初めて栽培された梨の「新甘泉」の収穫時期迫ってきており、大変危惧しているが、職員体制が充足していない現状からして根本的な構造改革をして、真の公社として再生すべきと思うが、見解を伺う。

町長答弁

正職2名、嘱託1名臨時1名の体制です。「新甘泉」の栽培につきましては、地域おこし協力隊員に熱心に取り組んで頂いた経緯もありまして、町民の皆さんに、ここまで栽培にこぎつけた方をねぎらうような会でも開けるといいなと自分の中では考えております。



旧明倫小学校校舎と体育館

小江尾工業団地をどう活用する



空場 語

動画で一般質問



空場議員の一般質問は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。

小江尾工業団地の現状は

質問 小江尾工業団地は、団地造成されて20年経ちますが、現状はどうなのか。
工場誘致の話はあるのかを伺います。

町長答弁

小江尾工業団地は、平成12年に2・8ヘクタールを2億2千万円で買収造成されました。今のところ、工場誘致の計画はなく、JAの苗ハウス、土木資材置場、江尾十七夜の駐車場に活用しております。

担当課長答弁

現在3事業者に、一



小江尾工業団地

工業団地以外での転用計画は

質問 町長は町全体の施設の利活用は、有識者会議で検討するということでした。工業団

地的に、借地として使用して頂いています。
JAは年間7万8千円、西日本高速には、14ヶ月74万円です。

地の活用が出来るなら、今後の町づくりに役立つ活用をして頂きたい。

町長答弁

工場誘致だけを狙ってやるのは難しい状況です。

具体的な活用案が提示されれば検討したい。

NPOに委託したメリットは

質問 今年度、新たな施策として、NPOに移住定住、空家対策の業務等、多くの仕事を委託されました。町づくり推進課で行ってきた業務を民間NPOに外部委託をされたメリットは、何があるのか伺いたい。

町長答弁

NPOに委託したメリットは、行政では出来なかつた、きめ細かな移住定住相談、空家バンクの管理を、希望者のニーズに、柔軟で迅速に対応できると考

農業支援員を設けては

え委託した。

質問 江府町は農産物の町です。農業をやりたいに移住した人に、アドバイザーとしての支援員を置いて、農業振興を図って頂きたい。

町長答弁

農業の支援員という形では考えていません。農業の相談があれば、地元の農業者に、商売の事は商工会に、あるいは行政につないでいく役割をNPOに期待しています。

最近の役場職員の仕事ぶりは

質問 町長は、副町長時代に、職員に対して接客やマナーについてブログで苦言を言われておりました。

現在は、町長になられ、三役も変わり、新しい職員も入ってきてお

りますが、今現在の評価はいかがでしょうか。

町長答弁

町長になって以来、住民目線、当事者意識、挑戦の3つが仕事をしていくうえで大切な事として指導してきました。

窓口対応も、以前と比べて良くなっています。

部外からのマナー研修を

質問 役場で仕事をする人は全員が町づくりのスタッフと考えます。ぜひとも、部外の人材育成のアドバイザーに依頼して、スタッフのスキルアップを含めて、マナー研修を取り入れて頂きたい。

町長答弁

江府町では、人材育成基本方針に定めて、研修を行っています。

接遇に対する研修を含めて、役場内で研修に努めていると聞いています。

住民懇談会報告

4月18日防災情報センターにて開催

議会からの報告事項 ○平成30年度予算 ○庁舎建設
○奥大山スキー場 ○その他

主な意見

庁舎建設問題

問 庁舎スケジュールについて：護岸工事はいつだれがするのか。
答 県にお願いして、県が施工する。

問 災害対応について：溪谷河川の中に建設するようになるが洪水で孤立の恐れは？
答 50年に1度の洪水を想定して護岸の設計をしている。また、斜面の対策も県にお願いしている。

問 庁舎建設のワークショップに参加して：建設経済効果町内5パーセント程度ではないけない。ぜひ、地元産材料を使用してお金を地元で落としてほしい。
答 ぜひ、そうしたい。

問 庁舎について：第1案で大山が見えるか。岩石埋め立て地の利用はできないか。
答 進入路を検討して見晴らしがよいように工夫する。杭基礎が長くなり工事費がかさむので避けている。

問 見晴らしばかりではいけない、災害対策を第一にやってほしい。木造はどうか。
答 安全第一でかつ良い位置にしたい。実施設計ができた時点でよく検討する。

問 CO2のことを考えれば長期的には木造は安くなるのではないか。環境のことも考えてほしい。
答 設計の段階で考えます。強度も大事な要素です。全部木造は無理だと考える。議会としては木材は多用するようお願いしている。

奥大山スキー場問題

問 奥大山スキー場について：存続してほしいが、指定管理はどうかと思う。少しぐらいの赤字が出て、働く場として考えれば町の財産である。年間通して使用できるように、汗と知恵を出して。
答 民間業者のほうがノウハウを持っている、他のスキー場でも

復活した例がある。現在の従業員も続けて採用してもらう。活性化につながるので地元のNPOなどの管理者が望ましい。来年1年運営してその間によく考えたい。

問 来場者2万人の根拠と集客の方法は、また集客範囲は。
答 岡山方面にファンが多く米子で前泊する人が多い。集客方法としては広告や宣伝媒体を使用している。参考として平成30年3月12日までの87日間の営業日数で約1万7千人の来場で売り上げは約6千6百万円であった。

問 このスキー場の周辺には多数（5カ所ぐらい）のスキー場がある。聞く所によると榎水スキー場も経営が苦しくなってきた。これから伸びるのはおもしろい。赤字が増えるばかり。廃止した方がよいのではないか。
答 関連して：スキー以外の楽しみ方もあるではないか。今ある資源を見直してほしい。赤字だからすべてやめるのはいかがかと思う。

問 スキーばかりではない、7割はスノーボードです。コースが他にはない天然のハーフパイプでリピーターにながっている。奥大山も努力しているがまだまだ足りないと思います。
答 リフト更新の財源や返済のあたりは。

問 第一リフトを2億円で再設置しますが、辺地債を利用して4千万円の手出しになります。返済資金は町が使用料として指定管理者から頂きます。
答

その他

問 江尾駅を利用する女性が構造的にトイレを使いたいので改修を望む。外国人向けの案内がなく困っている。
答 トイレの件はイモコ塾利用者からも聞いています。できることから改良していきます。

問 給食センターを民間委託した理由は、その委託料は、給食作業従事者の応募がなく給食に支障が出る恐れがあった。委託料については通常の時と同額です。
答

陳情の審査結果

提出のあった陳情は、6月定例議会で審査した結果、下記のとおり決定しました

件名	提出者	審議結果
地方財政の充実・強化を求める陳情	江府町職員労働組合 執行委員長 道下 隆志	採 択 (全員一致)

私のひと言



下安井 井上登志夫

まるごと奥大山が 半端ないって？

10数年前より、義父の介護や週末家庭菜園と集落の役目等で江府町に往來していました。

家人亡きあと、定年退職と子供達の自立を機に妻の実家に転居してから早いもので3年になります。大雪と異常寒波による凍結破損ハットウジの猛襲(半端ないって!)の洗礼を浴び、戸惑いを感じた事も今は懐かしい思い出です。奥大山江府町の優しく包み込むような山々に囲まれ、四季の移り変わりを感じながら日々ほぼストレスフリーな生活を楽しんでいます。

空気、水、米、野菜等全てがおいしい。毎日が新しい発見の連続で山に入れば

森林浴のいい香りが漂ってきます。都市部では味わえないものが此処にはたくさんあります。

ゾウやキリンはいませんが、熊、猪、鹿、猿、狐、たぬき、穴熊等たくさん動物が生息しています。作物被害に遭われた方には失礼な言い方かもしれませんが、さしずめ「奥大山自然動物園」とも言いましょうか、動物たちの楽園です。その源は豊かな山々があるからでしょう。

五百年の歴史を継承している「江尾十七夜」(屋台の数は半端ないって!)、新たな創作物語「天の蜚」、雇用の拠点「水工場」、子供の成長を願う「日野川に泳ぐこいのぼり」など新旧の取り組みを町ぐるみで行っている活気ある町だと感じます。また、喫緊の課題である少子高齢化の問題、及び江府町の移住定住政策の成果もじっくり見届けていきたい。

今年は大山開山1300年、豪雪多雨の山々で育った樹木のように、しっかりと大地に根を張り何事にも耐え抜く力を身に付け、これからも此処で楽しい生活を送ってまいります。



本町五丁目 川端 孝子

「こうふくらしつく♪」

28年10月に、「江府町暮らしやすい地域づくりを考える町民ワークショップ」という町づくりについて話し合う研修会に夫婦で参加しました。そこに集まった参加者の中でできた民間団体が「こうふくらしつく♪」です。「江府」「幸福」「暮らし」「クラシック」「ホームシック」

を意味し、江府町での暮らしが幸せで、一度外に出ても帰りたいと思える町にしたいという願いが込められています。民間団体ではありませんが、三千人の楽しい町となるよう、行政の協力も得ています。

江府町を盛り上げるために出来るようなことを話し合い2つ実行しました。1つ目は、昨年の「奥大山ひなまつりコレクショ」に合わせ、江尾駅前

「駄菓子屋うまいBAR」を2年続けて開きました。子どもも大人も好きな駄菓子を売りながら、当てくじや輪投げなど、楽しめる案を出して、メンバー自身も楽しみました。有志の方からは、お店やお花、お飾りの提供を受け、そして町民の皆様には大勢ご来店頂き好評でした。

2つ目の、不用品の物々交換「わらしべ祭り」も二回行いました。不用品の交換だけが目的ではなく、人口が少ない江府町だからこそ、人と人とのつながり、交流を意識した活動でした。この活動も、防災センターと道の駅奥大山の店舗前をお借りし、チラシのイラストを描いてもらうなど、ご協力いただきました。

次の活動として、この夏「エバーランドにて「星を観る会」を計画しています。星がきれいな「星取県」、わが町のエバーランド、飲みながら食べながら、星を観るって楽しそうでしょう♪決定したら町民の皆様にお知らせしますので、ぜひご参加ください。「天の蜚」のような☆が輝きますように、当日の天気を祈ります。



今、小さな町江府町は、全国に向けて大きく羽ばたこうとしていきます。そんな思いを先般開催された、サントリー・日本通運の10周年記念式典で強く感じました。奥大山というブランドのもと、まさに全国に向けてその名を広めています。毎日見ている大山の姿が、多くの人たちに感動を与え、そこから湧き出る水が、たくさんの方々には飲まれ感激されています。

過疎化、少子高齢化と寂しい思いを持ちがちですが、ここ江府町に生きている多くの人が、楽しいまちにできる可能性は高いと思います。その大きな責任を江府町議会も感じています。皆様と一緒に楽しいまちづくりに頑張っていきたいと思えます。

森田哲也

広報公聴常任委員会

- 委員長 上原 二郎
- 副委員長 三輪 英男
- 委員 三好 晋也
- 川端登志一
- 森田 哲也